

2023 年 4 月 27 日

「第 13 回 消費動向に関するインターネット調査」の結果について ー生活必需品等の値上がりにより、暮らし向きの悪化を実感している人が増加ー

足利銀行（頭取 清水 和幸）のシンクタンクであるあしぎん総合研究所（社長 荒井 大）は、「第 13 回 消費動向に関するインターネット調査」を行いましたので、その結果を別紙のとおり発表いたします。今回のポイントは下記のとおりです。

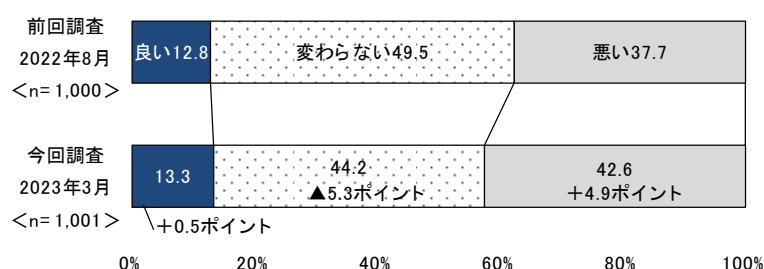
記

<調査結果のポイント>

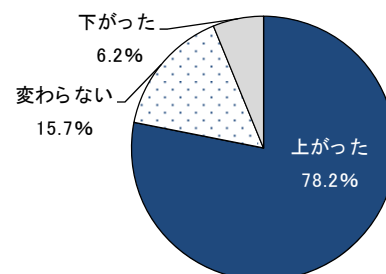
■暮らし向きの状況 ～現在の暮らし向きは約 4 割が「悪い」と回答～

- ・ 現在の暮らし向きが「良い」※¹と回答した人の割合は 13.3%、「悪い」※²と回答した人の割合は 42.6%となった。（図表 1）
 ※1 「良い」＝「良くなった」＋「どちらかと言えば、良くなった」
 ※2 「悪い」＝「悪くなった」＋「どちらかと言えば、悪くなった」
- ・ 前回調査（2022 年 8 月）と比べると、「良い」と回答した割合は＋0.5 ポイント、「悪い」と回答した割合は＋4.9 ポイントとなった。
- ・ よく購入する物の価格が 1 年前と比べて「上がった」※³と回答した人の割合は 78.2%、「下がった」※⁴は 6.2%、「変わらない」は 15.7%となった。（図表 2）
 ※3 「上がった」＝「かなり上がった」＋「少し上がった」
 ※4 「下がった」＝「かなり下がった」＋「少し下がった」
- ・ 日常生活を送る上での生活必需品や光熱費の値上がりにより、家計負担が増したことで、暮らし向きが悪化した可能性がある。

【図表1】 1年前と比べた現在の暮らし向き



【図表2】 1年前と比べた物価の変化
<n=1,001>



以 上

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社あしぎん総合研究所 地域開発事業部 竹内 Tel 028-908-6116

「第13回 消費動向に関するインターネット調査」の結果について

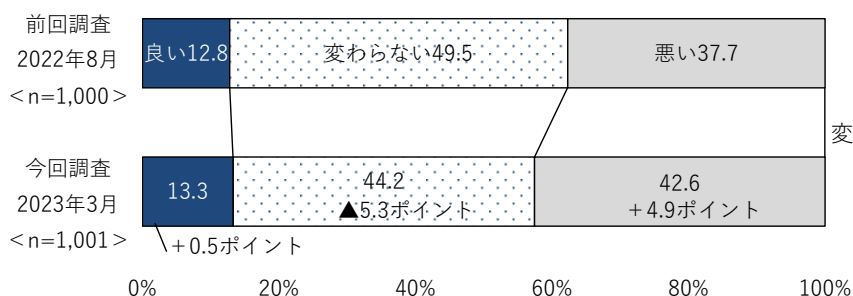
ー生活必需品等の値上がりにより、暮らし向きの悪化を実感している人が増加ー

＜調査結果のポイント＞

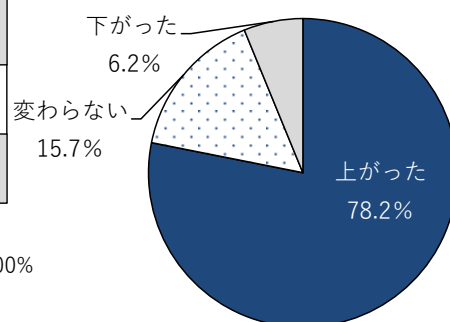
■暮らし向きの状況 ～現在の暮らし向きは約4割が「悪い」と回答～

- ・ 現在の暮らし向きが「良い」※¹と回答した人の割合は13.3%、「悪い」※²と回答した人の割合は42.6%となった。（図表1）
 - ※¹ 「良い」＝「良くなった」＋「どちらかと言えば、良くなった」
 - ※² 「悪い」＝「悪くなった」＋「どちらかと言えば、悪くなった」
- ・ 前回調査（2022年8月）と比べると、「良い」と回答した割合は+0.5ポイント、「悪い」と回答した割合は+4.9ポイントとなった。
- ・ よく購入する物の価格が1年前と比べて「上がった」※³と回答した人の割合は78.2%、「下がった」※⁴は6.2%、「変わらない」は15.7%となった。（図表2）
 - ※³ 「上がった」＝「かなり上がった」＋「少し上がった」
 - ※⁴ 「下がった」＝「かなり下がった」＋「少し下がった」
- ・ 日常生活を送る上での生活必需品や光熱費の値上がりにより、家計負担が増したことで、暮らし向きが悪化した可能性がある。

【図表1】 1年前と比べた現在の暮らし向き



【図表2】 1年前と比べた物価の変化
<n=1,001>



<調査の概要>

- (1) 調査時期 2023 年 3 月
- (2) 調査方法 インターネット調査
- (3) 調査対象者 栃木県、茨城県、群馬県、埼玉県の 20 歳以上の男女
(20 歳～69 歳：有職者 70 歳以上：有職者＋無職等)
- (4) 回答者数 1,001 人
- (5) 回答状況 下記のとおり

回答状況

		回答者数(人)	構成比(%)			回答者数(人)	構成比(%)
全 体		1,001	100.0	業種	製造業	142	31.3
性別	男性	501	50.0		卸・小売業	51	11.3
	女性	500	50.0		建設・不動産業	27	6.0
年代	20-29歳	184	18.4		情報通信業	22	4.9
	30-39歳	184	18.4		運輸業	26	5.7
	40-49歳	184	18.4		医療・福祉	57	12.6
	50-59歳	184	18.4		飲食・サービス業	42	9.3
	60-69歳	185	18.5		金融・保険業	35	7.7
	70歳以上	80	8.0		その他	51	11.3
職業	会社員・会社役員	464	46.4				
	公務員・団体職員	94	9.4				
	自営業	42	4.2				
	自由業・専門職	32	3.2				
	派遣・契約社員	69	6.9				
	パート・アルバイト (学生・専業主婦・主婦を除く)	233	23.3				
	無職・その他	67	6.7				

(6) 注意点

図表中の n とは、回答者数のことである。

集計は、小数第 2 位を四捨五入しているため、数値の合計は 100%にならない場合がある。

(7) 目次

1. 暮らし向きについて

- (1) 1 年前と比べた現在の暮らし向き（家計収支の状況）
- (2) 1 年前と比べた世帯収入の変化
- (3) 1 年前と比べた世帯収入の増減理由
- (4) 1 年前と比べた世帯支出の変化
- (5) 1 年前と比べて増えた支出
- (6) 1 年後の暮らし向き（家計収支の状況）
- (7) 1 年後の暮らし向きが現在と比べて「良くなる」要因、「悪くなる要因」

2. 貯蓄の状況について

- (1) 毎月の貯蓄額
- (2) 貯蓄方法
- (3) 貯蓄総額

3. 転職について

- (1) 転職意向
- (2) 転職を考えている理由、考えていない理由

4. 副業について

- P3 (1) 副業についての考え P15
- P4 (2) 副業をしている理由、考えている理由 P15

5. 冬季ボーナスについて

- P7 (1) 冬季ボーナスの受給状況（前年冬季ボーナス比） P16
- P8 (2) 冬季ボーナスの受給額 P16
- P10 (3) 冬季ボーナスから貯蓄に回した金額 P17
- P11 (4) 冬季ボーナスを貯蓄に回した目的 P18

6. 物価について

- P12 (1) 1 年前と比べた物価の変化 P19
- P12 (2) 物価上昇への対応 P19
- P13 (3) 特に価格が上がったと感じるもの P20
- (4) 1 年前と比べた電気・ガス料金、水道料金の変化 P20
- P14 (5) 1 年後の物価の見通し P21
- P14

1. 暮らし向きについて

(1) 1年前と比べた現在の暮らし向き(家計収支の状況)

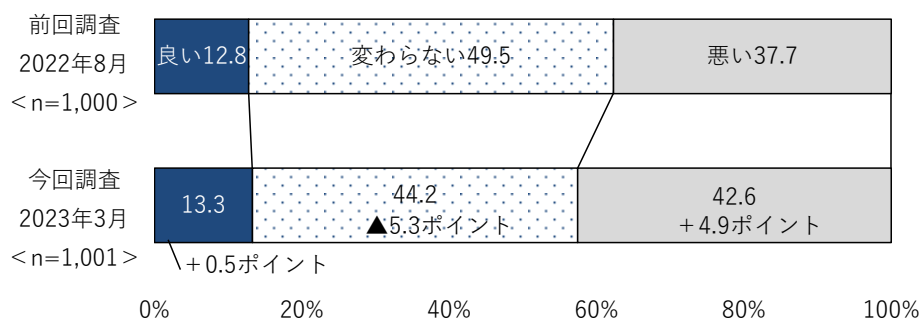
- 現在の暮らし向きが「良い」※¹と回答した人の割合は13.3%、「悪い」※²と回答した人の割合は42.6%となった。(図表1)

※1 「良い」＝「良くなった」＋「どちらかと言えば、良くなった」

※2 「悪い」＝「悪くなった」＋「どちらかと言えば、悪くなった」

- 前回調査(2022年8月)と比べると、「良い」と回答した割合は+0.5ポイント、「悪い」と回答した割合は+4.9ポイントとなった。

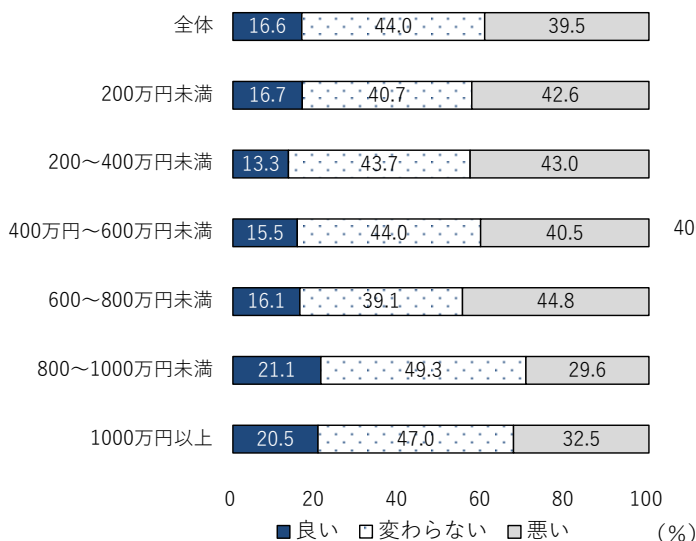
【図表1】 1年前と比べた現在の暮らし向き



- 世帯年収別にみると、現在の暮らし向きが「悪い」と回答した人の割合は、前回調査(2022年8月)と比べ、全ての年収帯において増加している。(図表2、図表3)

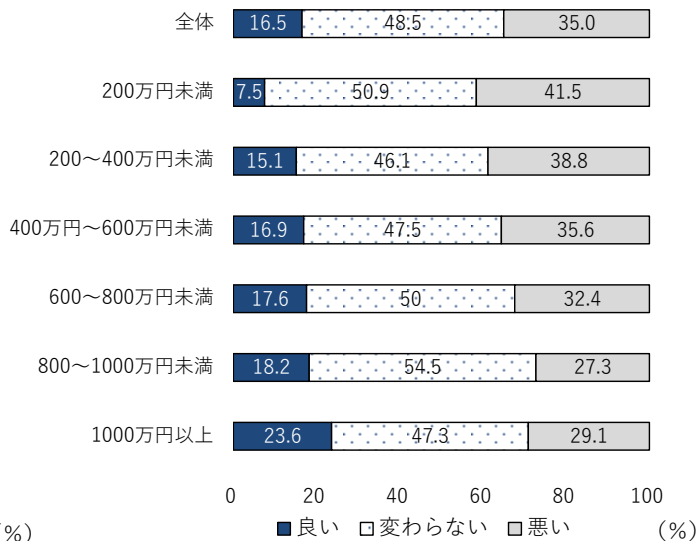
【図表2】 暮らし向きの状況(世帯年収別)

<n=598>



【図表3】 暮らし向きの状況(世帯年収別)

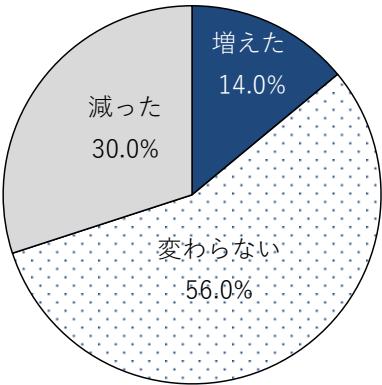
<2022年8月調査 n=577>



(2)1年前と比べた世帯収入の変化

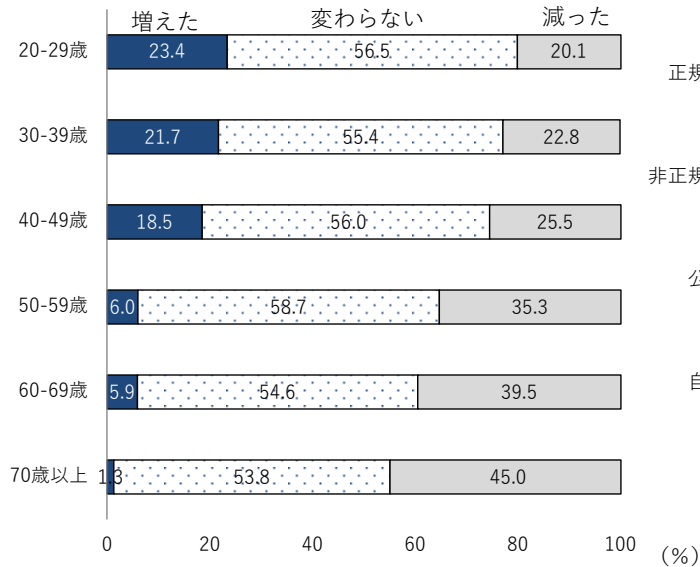
- 1年前と比べて世帯収入が「増えた」と回答した人の割合は14.0%、「減った」は30.0%、「変わらない」は56.0%となった。(図表4)

【図表4】 1年前と比べた現在の世帯収入
<n=1,001>

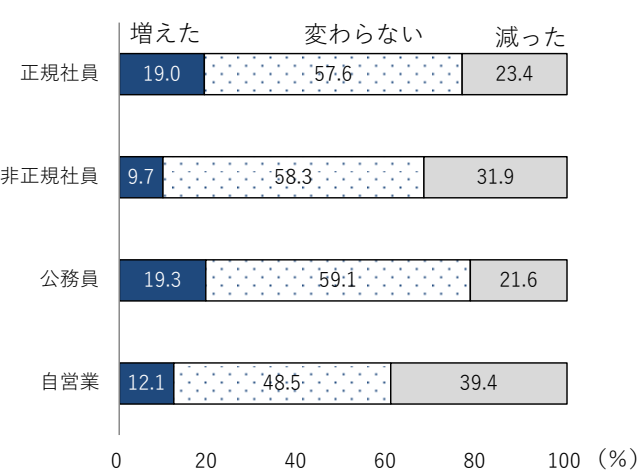


- 1年前と比べて世帯収入が「増えた」と回答した人の割合は、年代別でみると、20代では「減った」と回答した人の割合を上回っているが、それ以外全ての年代で「減った」と回答した人の割合を下回っている。また、雇用形態別にみると、全ての雇用形態で「減った」が「増えた」を上回った。(図表5、図表6)

【図表5】 1年前と比較した現在の世帯年収（年代別）
<n=1,001>



【図表6】 1年前と比較した現在の世帯収入（雇用形態別）
<n=895>

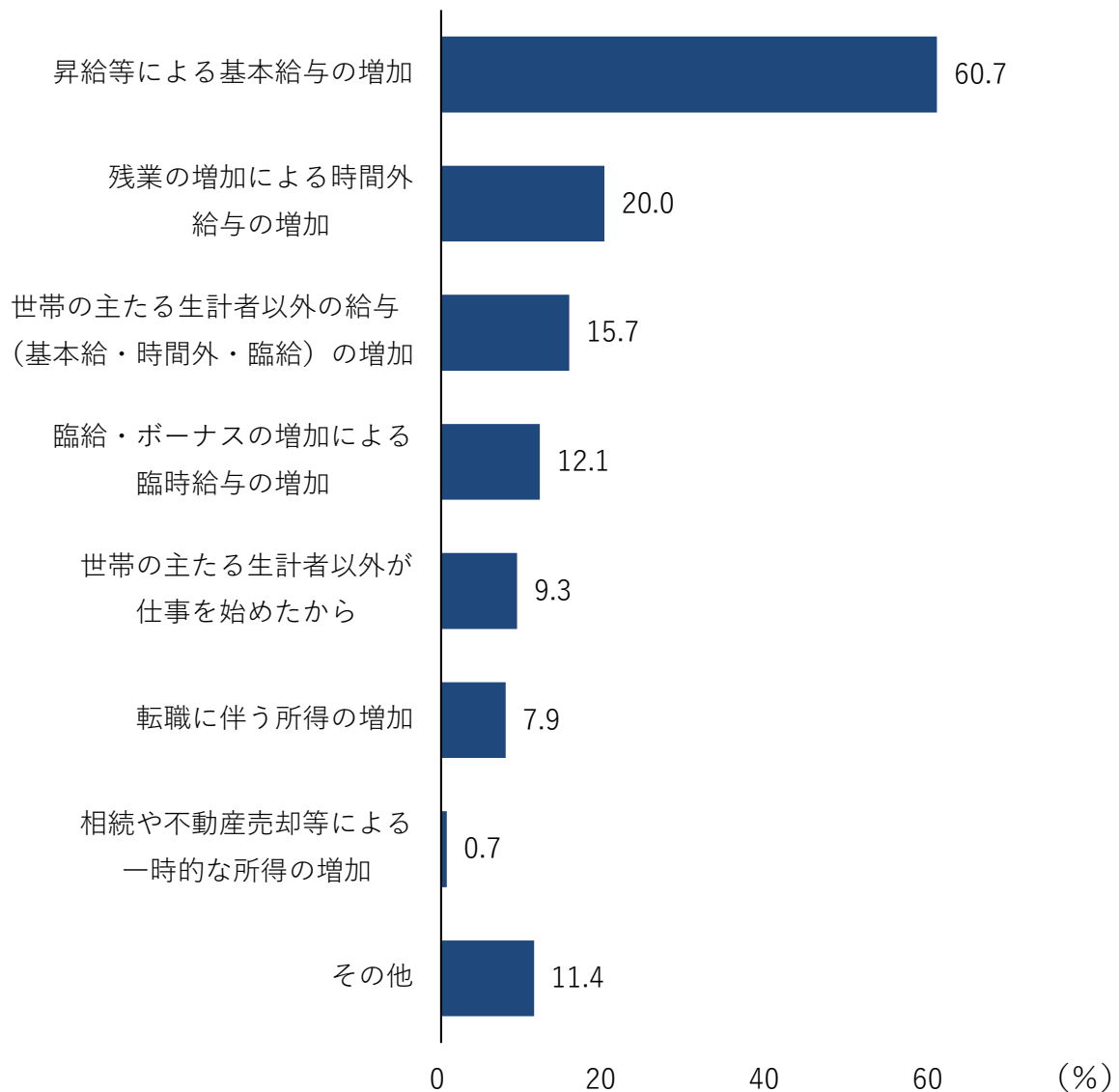


(3)1年前と比べた世帯収入の増減理由

- ・ 1年前と比べて世帯収入が増えた世帯についてその理由をみると、「昇給等による基本給与の増加」が60.7%と最も多く、次いで「残業の増加による時間外給与の増加」が20.0%、「世帯の主たる生計者以外（配偶者・パートナーなど）の給与（基本給・時間外・臨給）の増加」が15.7%となった。（図表7）

【図表7】 世帯収入の増加理由

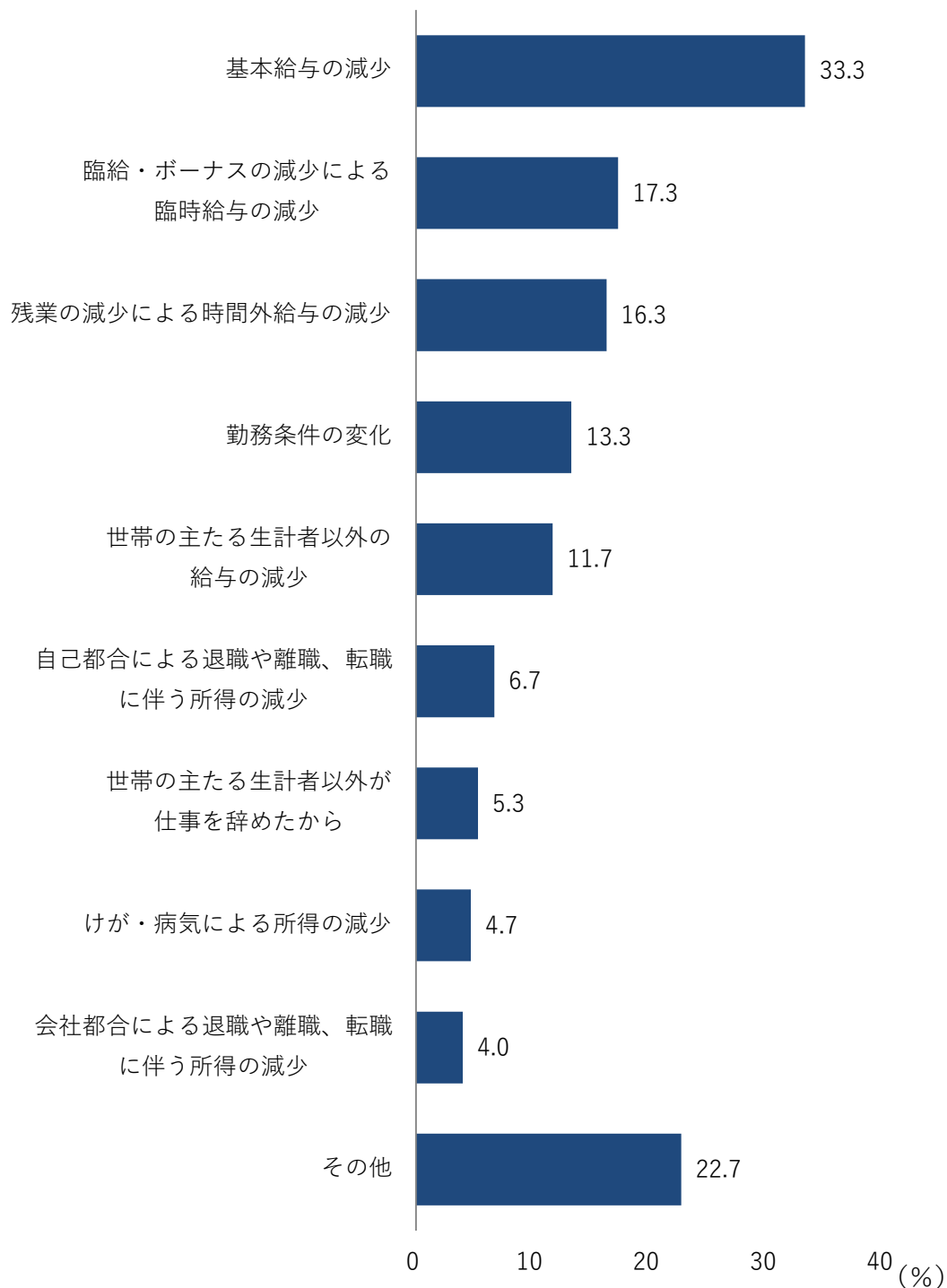
<複数回答 n=140>



- 1年前と比べて世帯収入が減った世帯についてその理由をみると、「基本給与の減少」が33.3%と最も多く、次いで「臨給・ボーナスの減少による臨時給与の減少」が17.3%、「残業の減少による時間外給与の減少」が16.3%となった。(図表8)

【図表8】 世帯収入の減少理由

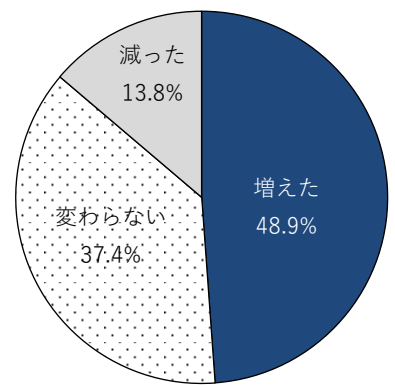
<複数回答 n=300>



(4)1年前と比べた世帯支出の変化

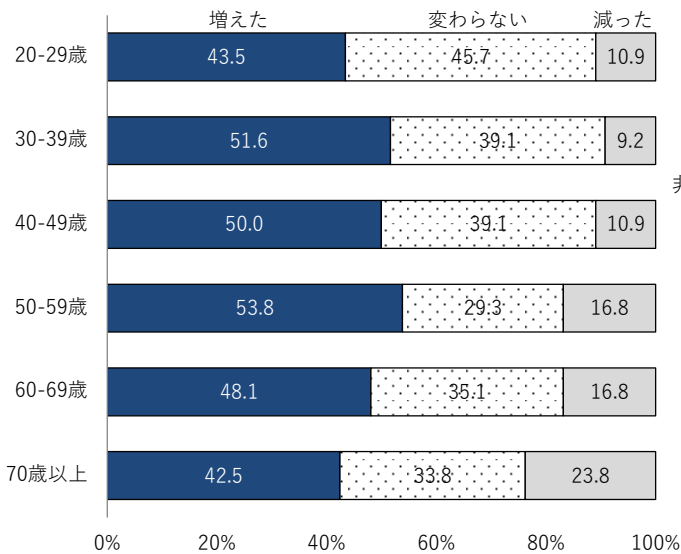
- 1年前と比べて世帯支出が「増えた」と回答した人の割合は48.9%、「減った」は13.8%、「変わらない」は37.4%となった。(図表9)

【図表9】 1年前と比べた現在の世帯支出
<n=1,001>

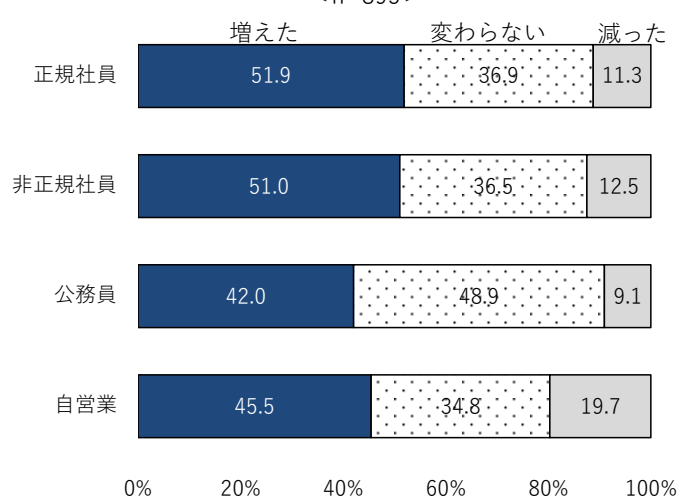


- 年代別にみると1年前と比べて世帯支出が「増えた」と回答した人の割合は、全ての年代で、「減った」と回答した人を上回った。(図表10)
- 雇用形態別にみると、世帯支出が「増えた」と回答した人の割合は正規社員、非正規社員で過半数となった。(図表11)

【図表10】 1年前と比較した現在の世帯支出（年代別）
<n=1,001>



【図表11】 1年前と比較した現在の世帯支出（雇用形態別）
<n=895>

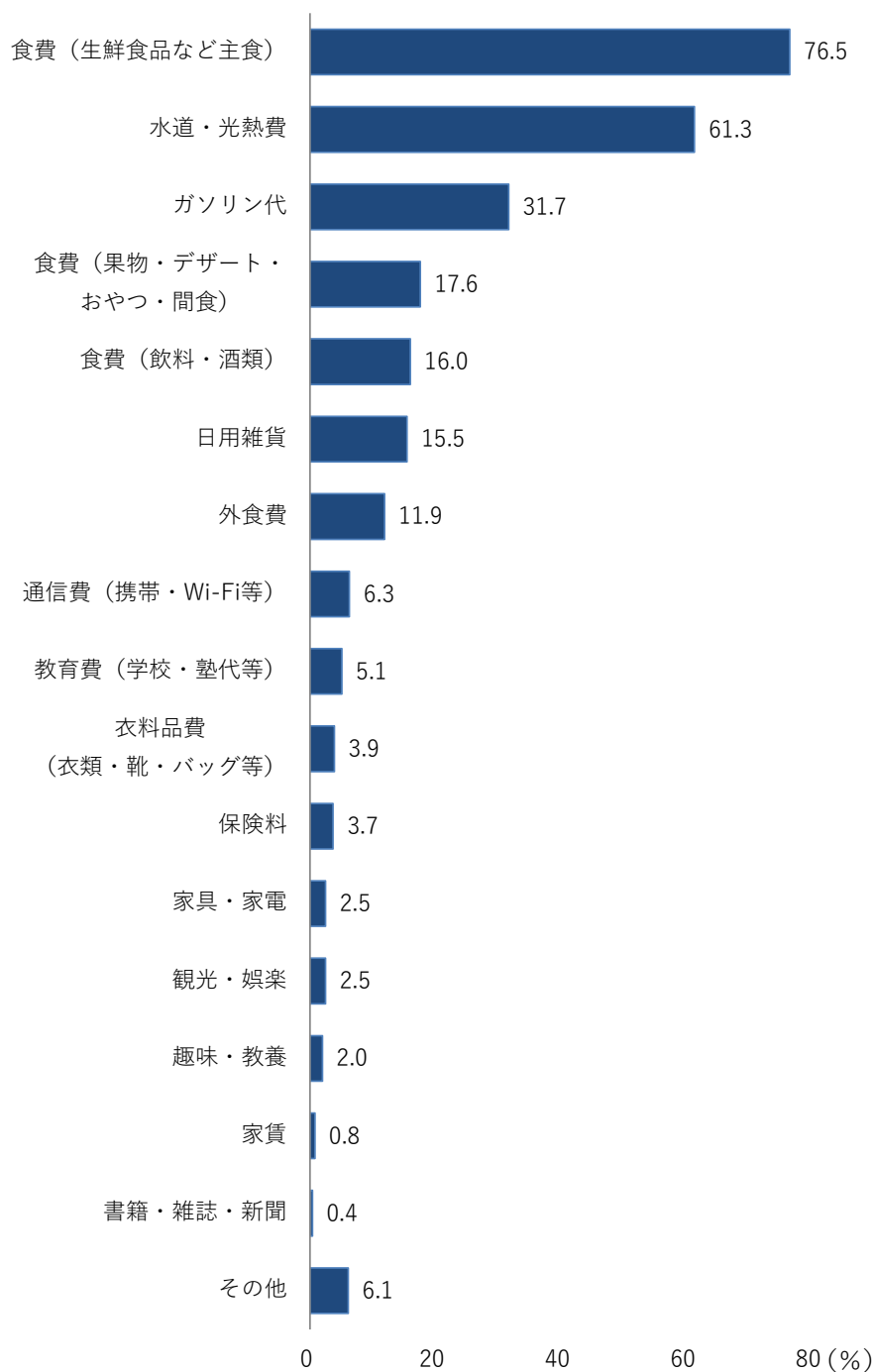


(5)1年前と比べて増えた支出

- ・ 1年前と比べて世帯支出が「増えた」人について特に増えた支出をみると、「食費（生鮮食品など主食）」が76.5%と最も多く、次いで「水道・光熱費」が61.3%、「ガソリン代」が31.7%となった。（図表12）
- ・ 値上がりが続く食料品やエネルギーに関連する品目での支出増加が目立つ。家計負担が増している可能性がある。

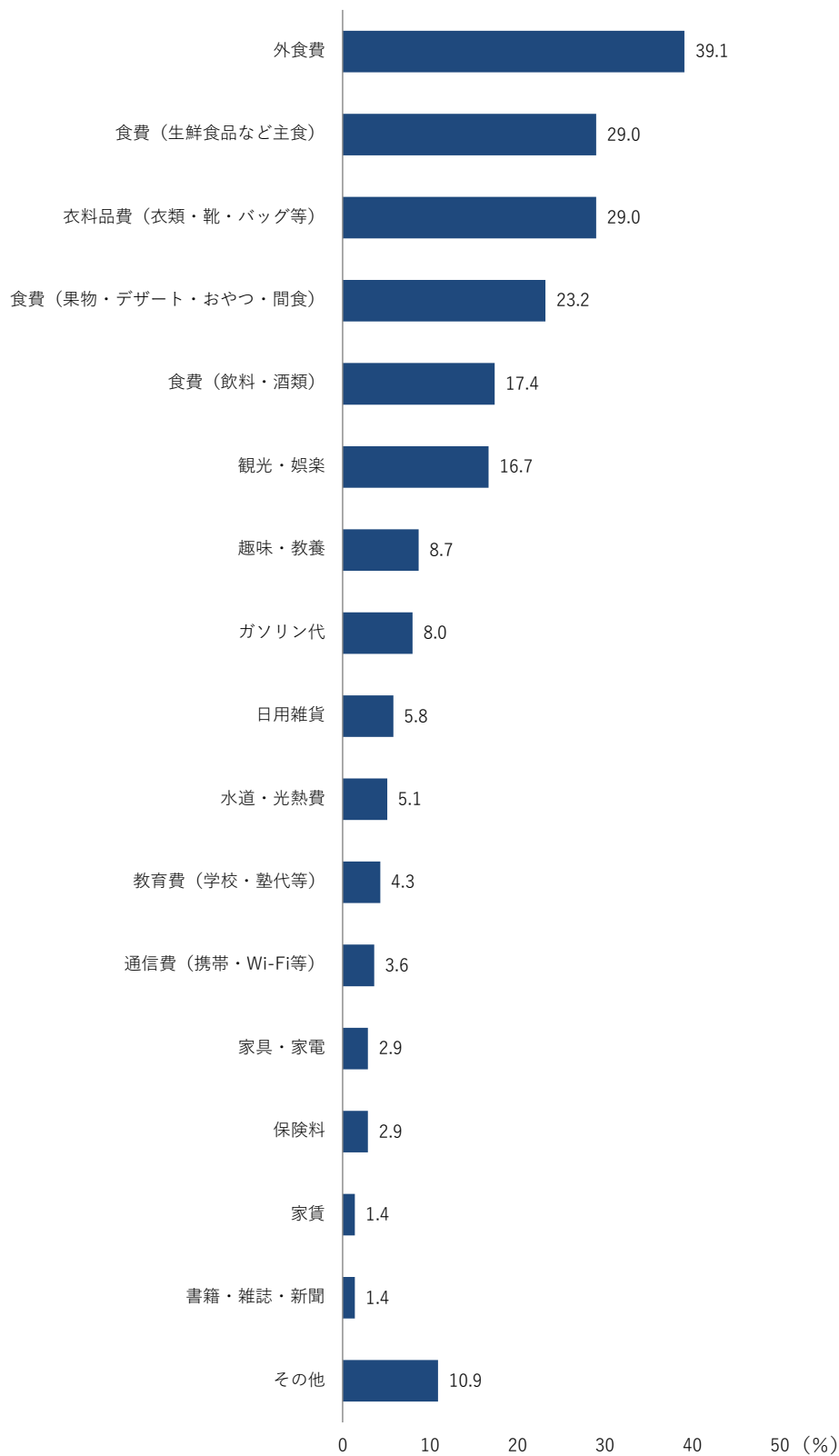
【図表12】 1年前と比べて増えた支出

<複数回答 n=489>



- ・ 1年前と比べて世帯支出が「減った」人について特に減った支出をみると、「外食費」が39.1%と最も多く、次いで「食費（生鮮食品など主食）」及び「衣料品費（衣類・靴・バッグ等）」が29.0%となっている。（図表13）
- ・ 物価上昇で家計の負担感が増す中、外食等の支出を抑える動きがみられた。

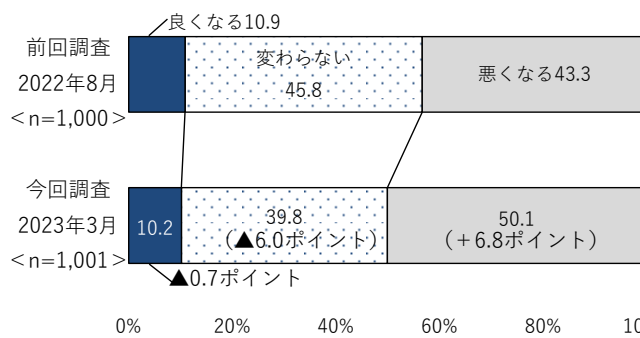
【図表13】 1年前と比べて減った支出
<複数回答 n=138>



(6)1年後の暮らし向き(家計収支の状況)

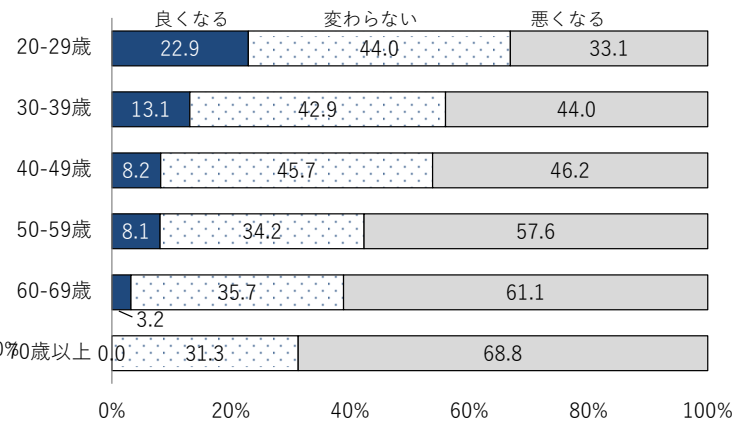
- 1年後の暮らし向きが「良くなる」※³と回答した人の割合は10.2%、「悪くなる」※⁴は50.1%、「変わらない」は39.8%となった。(図表14)
 - ※³ 「良くなる」＝「良くなる」＋「どちらかと言えば、良くなる」
 - ※⁴ 「悪くなる」＝「悪くなる」＋「どちらかと言えば、悪くなる」
- 前回調査(2022年8月調査)と比べると、「良くなる」と回答した割合は▲0.7ポイント、「悪くなる」と回答した割合は+6.8ポイントとなった。(図表14)
- 年代別にみると、1年後の暮らし向きが「悪くなる」と回答した人の割合は、年代が上がるにつれ大きくなっている。(図表15)

【図表14】 1年後の暮らし向きの状況



【図表15】 1年後の暮らし向きの状況(年代別)

<複数回答 n=1,001>

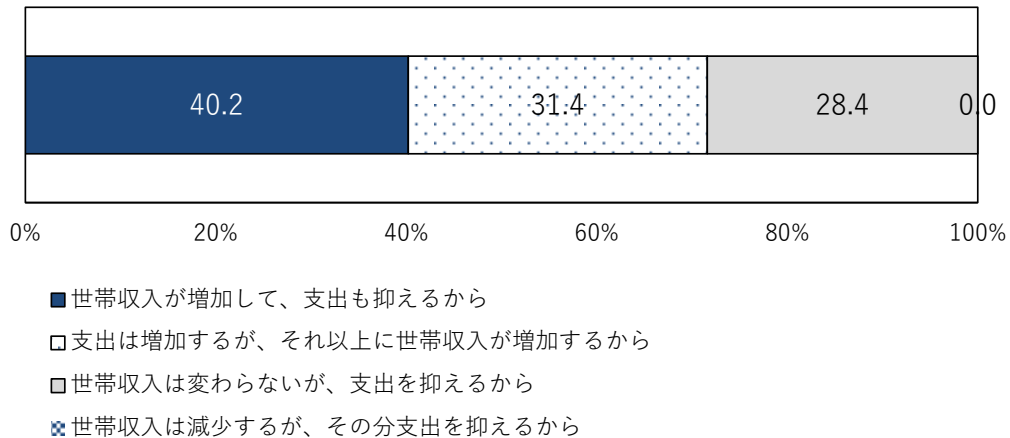


(7)1年後の暮らし向きが現在と比べて「良くなる」要因、「悪くなる」要因

- 1年後の暮らし向きが「良くなる」と思う主な要因については、「世帯収入が増加して、支出も抑えるから」が40.2%で最も多く、次いで「支出は増加するが、それ以上に世帯収入が増加するから」が31.4%、「世帯収入は変わらないが、支出を抑えるから」が28.4%となった。なお、「世帯収入は減少するが、その分支出を抑えるから」との回答はなかった。(図表16)

【図表16】 1年後の暮らし向きが「良くなる」と思う主な要因

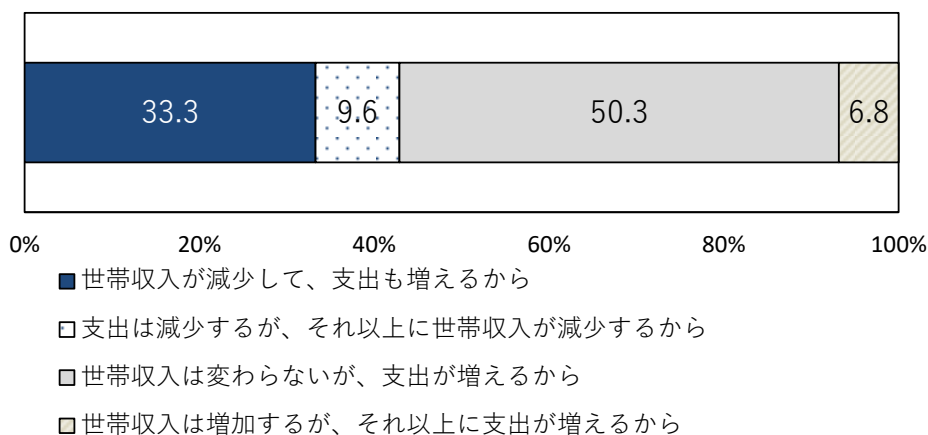
<n=102>



- 1年後の暮らし向きが「悪くなる」と思う主な要因については、「世帯収入は変わらないが、支出が増えるから」が50.3%と最も多く、次いで「世帯収入が減少して、支出も増えるから」が33.3%となった。(図表17)
- 生活必需品を中心とする物価の上昇が、今後の家計の暮らし向きを悪化させる懸念がある。

【図表17】 1年後の暮らし向きが「悪くなる」と思う主な要因

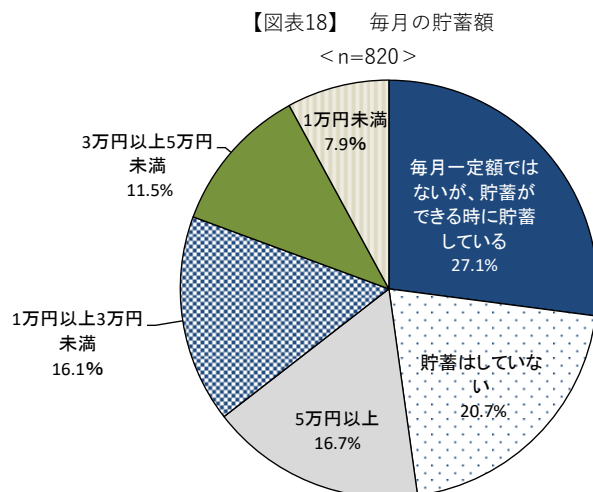
<n=501>



2. 貯蓄の状況について

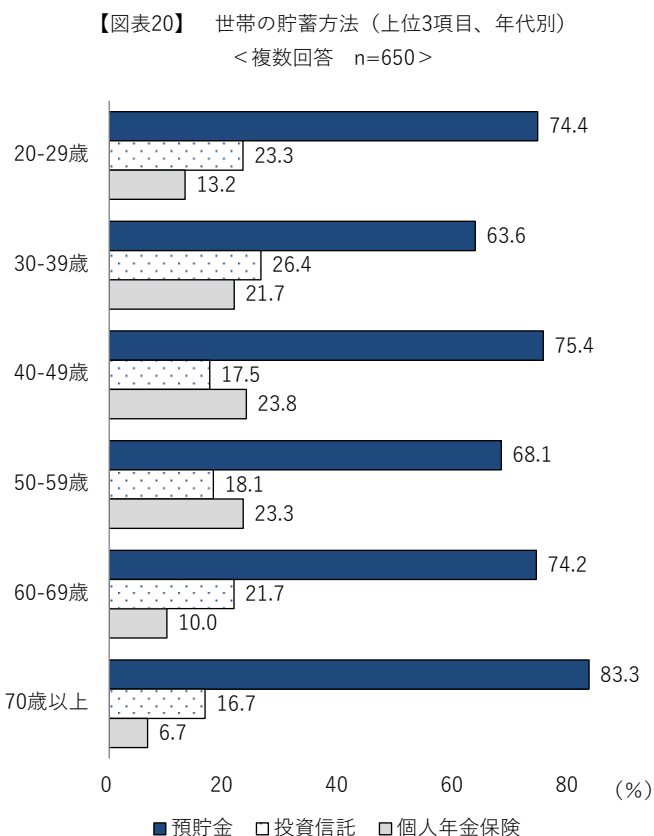
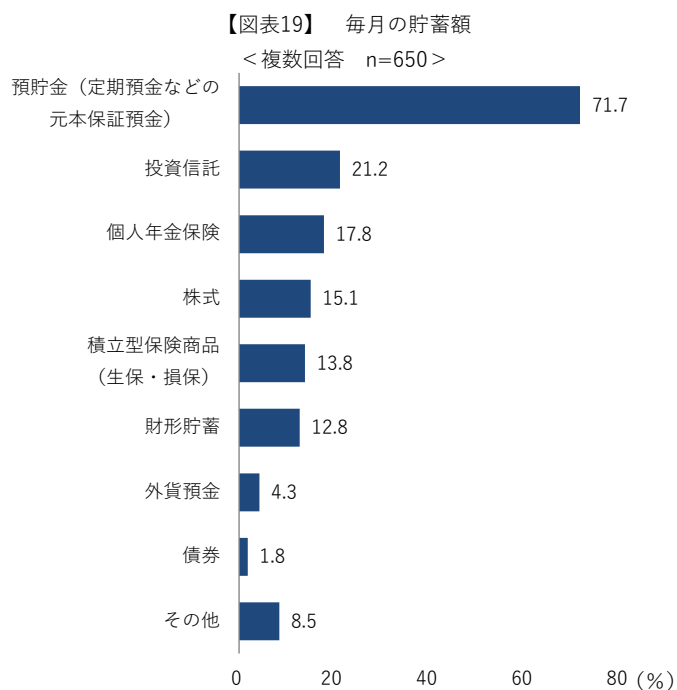
(1) 毎月の貯蓄額

- 家計の毎月の貯蓄金額の状況をみると、「毎月一定額ではないが、貯蓄できるときに貯蓄している」が27.1%と最も多く、次いで「貯蓄はしていない」が20.7%、「5万円以上」が16.7%となった。（図表18）



(2) 貯蓄方法

- 主な貯蓄方法は、「預貯金（定期預金などの元本保証預金）」が71.7%と最も多く、次いで「投資信託」が21.2%、「個人年金保険」が17.8%となった。全世代で「預貯金（定期預金などの元本保証預金）」で貯蓄する割合が多い。（図表19、図表20）

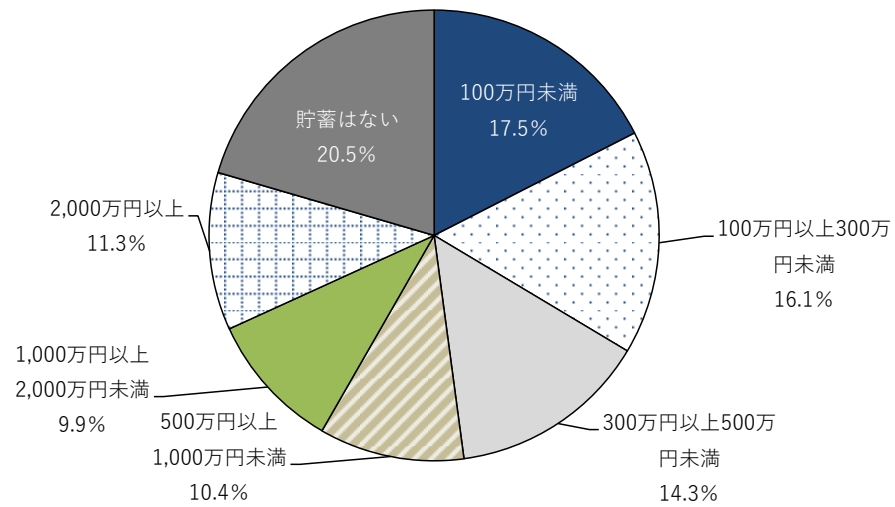


(3)貯蓄総額

- 世帯の貯蓄総額は、「貯蓄はない」が20.5%と最も多く、次いで「100万円未満」が17.5%、「100万円以上300万円未満」が16.1%となった。(図表21)

【図表21】 世帯の貯蓄総額

<n=566>

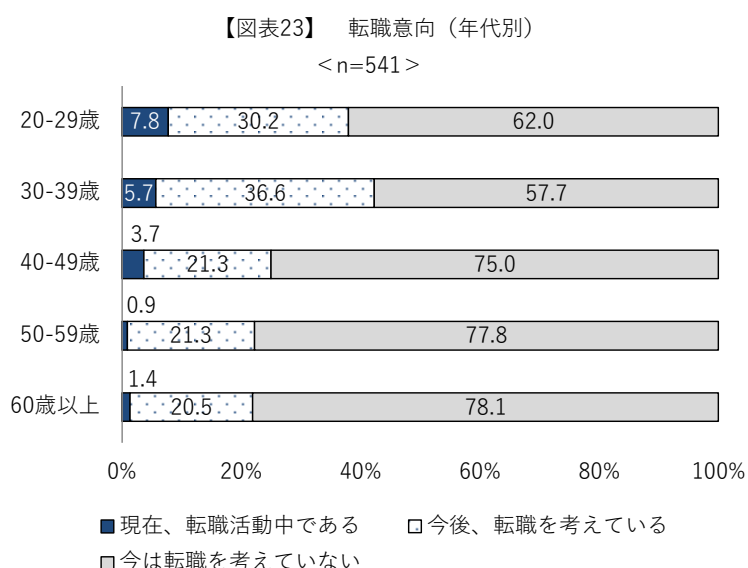
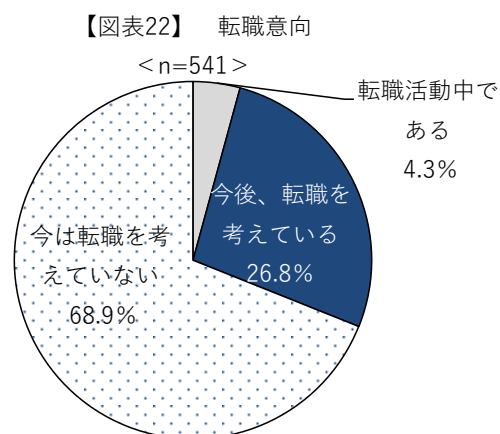


3. 転職について＜有職者のみ、会社員（管理職含む）・会社役員・公務員・団体職員＞

(1) 転職意向

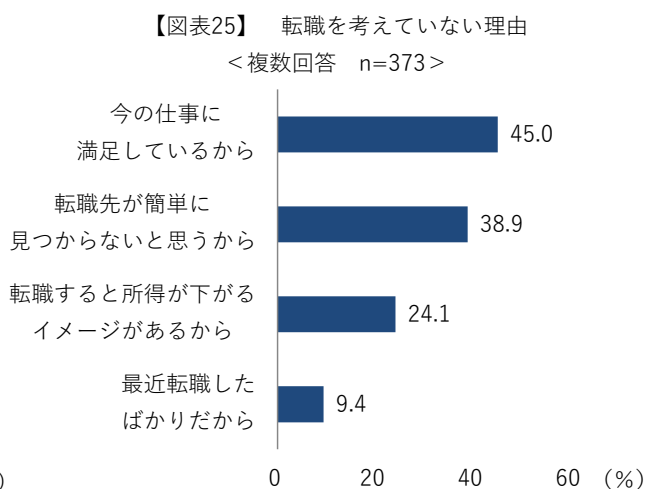
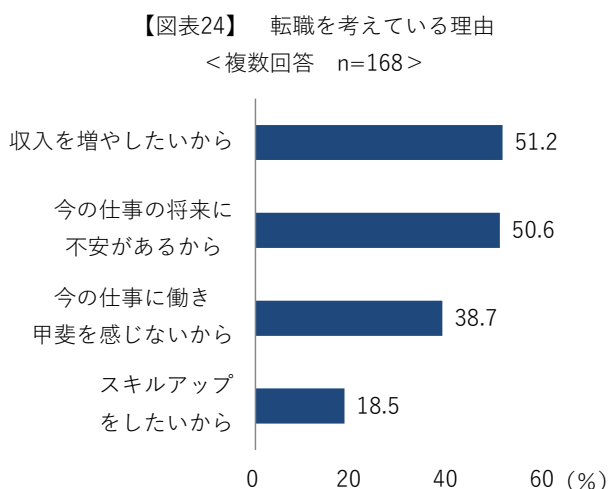
- ・ 転職に対する考え方をみると、「転職活動中である」が4.3%、「今後、転職を考えている」が26.8%、「今は転職を考えていない」が68.9%となった。（図表22）
- ・ 年代別に「転職を考えている」※5人の割合をみると、20代及び30代が多い傾向にある。（図表23）

※5 「転職を考えている」＝「現在、転職活動中」＋「今後、転職を考えている」



(2) 転職を考えている理由、考えていない理由

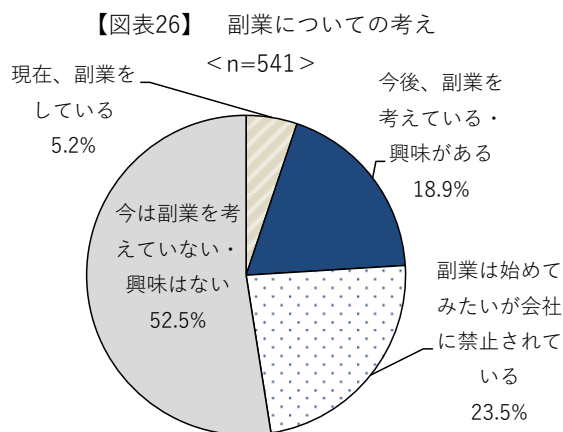
- ・ 「転職を考えている」と回答した人の理由をみると、「収入を増やしたいから」が51.2%と最も多く、次いで「今の仕事の将来に不安があるから」が50.6%となった。（図表24）
- ・ 「今は転職を考えていない」と回答した人の理由をみると、「今の仕事に満足しているから」が45.0%と最も多く、次いで「転職先が簡単に見つからないと思うから」が38.9%となった。（図表25）



4. 副業について＜有職者のみ、会社員（管理職含む）・会社役員・公務員・団体職員＞

(1) 副業についての考え

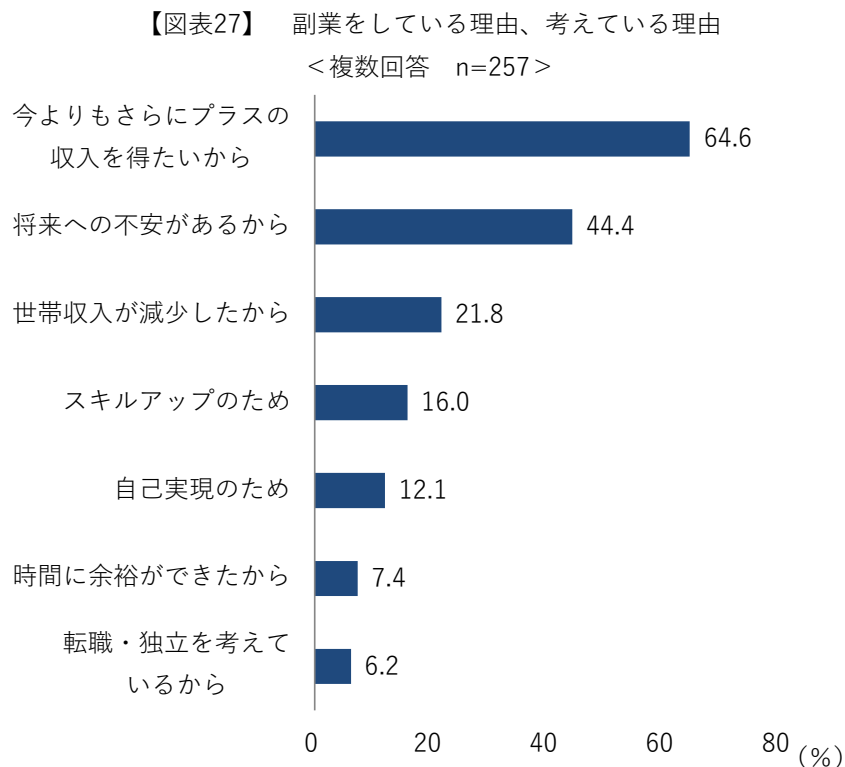
- 副業に対する考え方をみると、「現在、副業をしている」が5.2%、「今後、副業を考えている・興味がある」が18.9%、「副業は始めてみたいが会社に禁止されている」が23.5%、「今は副業を考えていない・興味はない」が52.5%となった。（図表 26）



(2) 副業をしている理由、考えている理由

- 「副業をしている、考えている」※6と回答した人の理由をみると、「今よりもさらにプラスの収入を得たいから」が64.6%と最も多く、次いで「将来への不安があるから」が44.4%の順となった。（図表 27）

※6 「副業をしている、考えている」＝「現在、副業をしている」＋「今後、副業を考えている・興味がある」＋「副業は始めてみたいが会社に禁止されている」

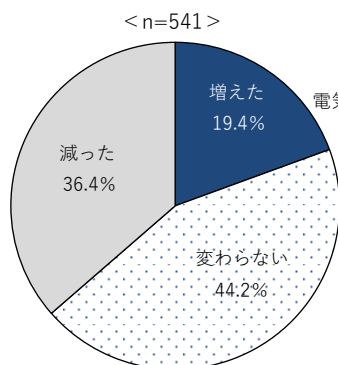


5. 冬季ボーナスについて<有職者のみ回答>

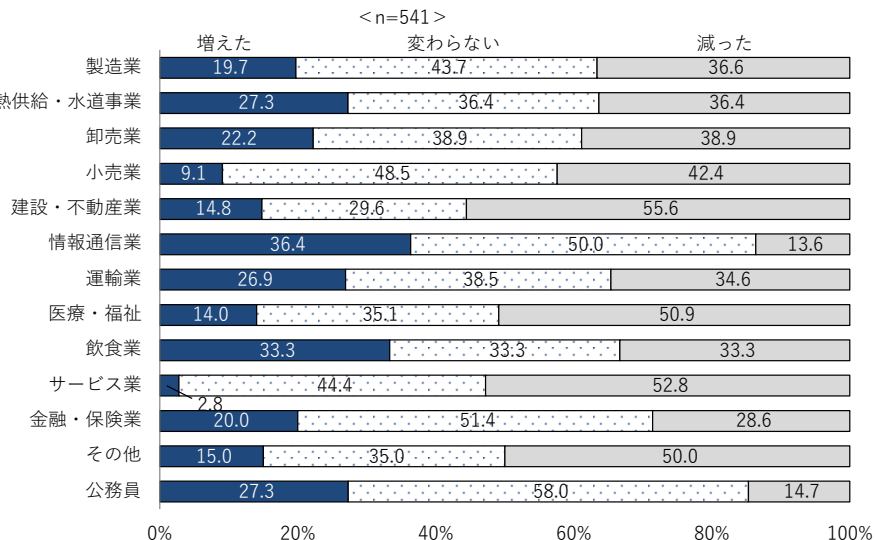
(1) 冬季ボーナスの受給状況(前年冬季ボーナス比)

- ・ 冬季ボーナスの受給状況は、前年よりも「増えた」が19.4%、「減った」が36.4%、「変わらない」が44.2%となった。(図表28)
- ・ 業種別にみると、前年よりも「増えた」と回答した割合が多かったのは、「情報通信業」が36.4%、次いで「飲食業」が33.3%となった。一方、「減った」と回答した割合が多かったのは、「建設・不動産業」が55.5%、次いで「サービス業」が52.8%となった。(図表29)

【図表28】 前年冬季ボーナスとの比較



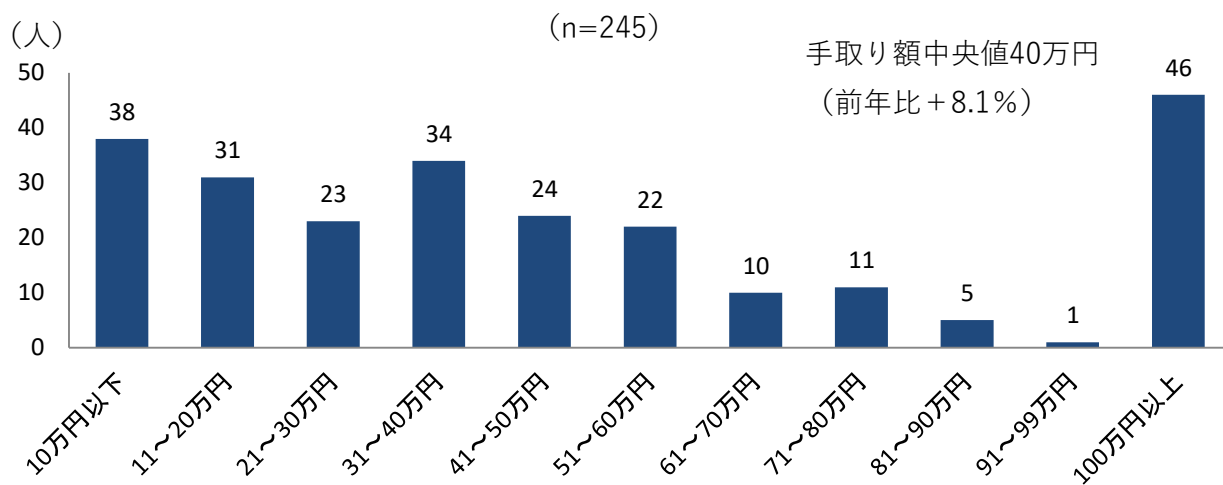
【図表29】 前年冬季ボーナス受給状況(業種別)



(2) 冬季ボーナスの受給額

- ・ 冬季ボーナスを受給した人の手取り額中央値は40万円となった。受給額(手取り額)をみると、「100万円以上」が最も多く、次いで「10万円以下」、「31~40万円」となった。(図表30)

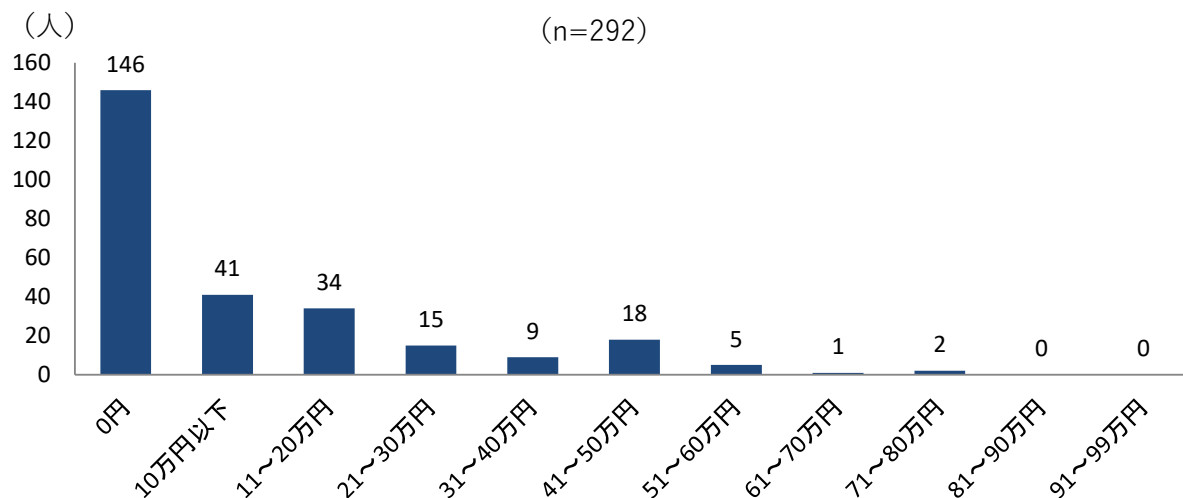
【図表30】 冬季ボーナスの手取り額



(3) 冬季ボーナスから貯蓄に回した金額

- 冬季ボーナスから貯蓄に回した金額をみると、「0 円（貯蓄に回していない）」が最多となった。（図表 31）

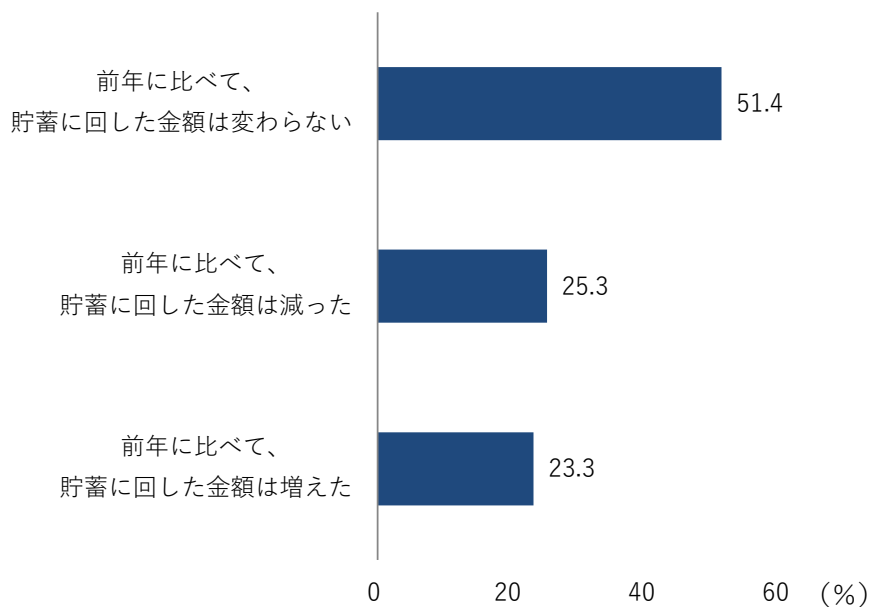
【図表31】 冬季ボーナスから貯蓄に回した額



- 冬季ボーナスから貯蓄に回した金額は、前年に比べて「貯蓄に回した金額は変わらない」が 51.4%と最も多く、次いで「貯蓄に回した金額は減った」が 25.3%「貯蓄に回した金額は増えた」が 23.3%となった。（図表 32）

【図表32】 貯蓄に回した金額の増減

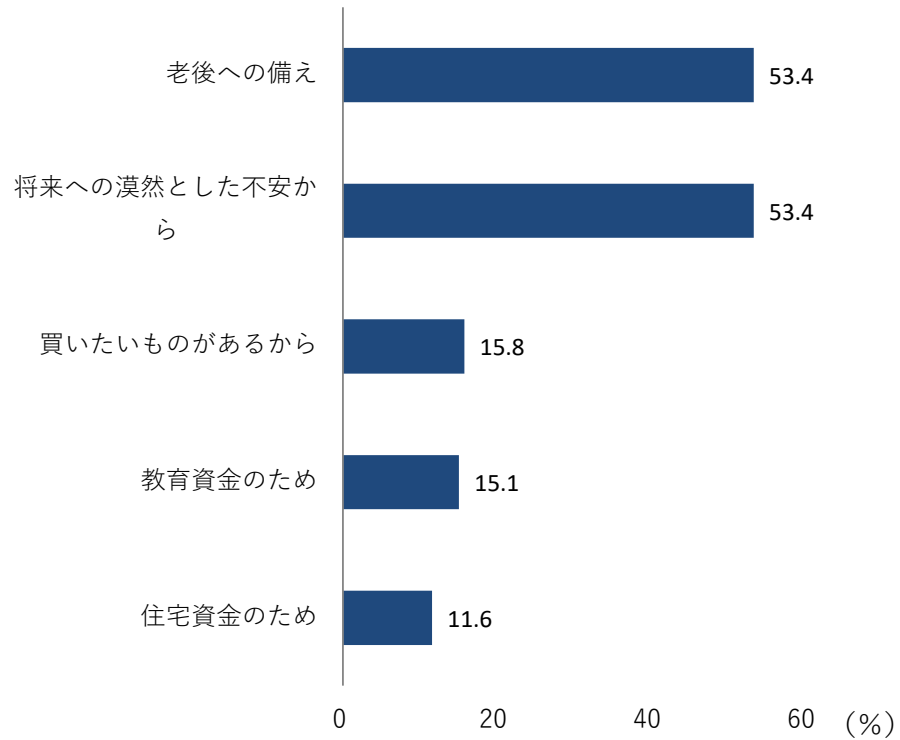
(n=146)



(4) 冬季ボーナスを貯蓄に回した目的

- ・ 冬季ボーナスを貯蓄に回した目的は、「老後への備え」、「将来への漠然とした不安から」が 53.4%と最も多く、次いで「買いたいものがあるから」が 15.8%となった。
(図表 33)

【図表33】 冬季ボーナスを貯蓄に回した目的
(複数回答 n=146)



6. 物価について

(1) 1年前と比べた物価の変化

- よく購入する物の価格が1年前と比べて「上がった」※7と回答した人の割合は78.2%、「下がった」※8と答える人の割合は6.2%、「変わらない」と回答した人の割合は15.7%となった。生活必需品の値上がりを多くの人が実感している。(図表34)

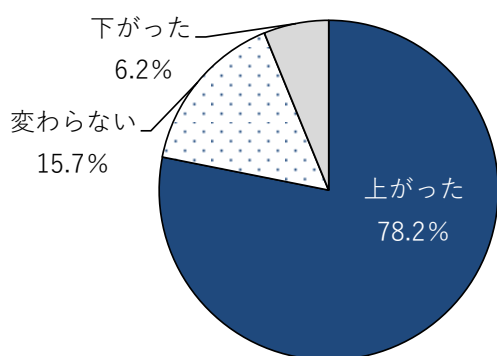
※7 「上がった」＝「かなり上がった」＋「少し上がった」

※8 「下がった」＝「かなり下がった」＋「少し下がった」

- 正規社員と比べて非正規社員、自営業の方が物価上昇を実感している割合が多い。(図表35)

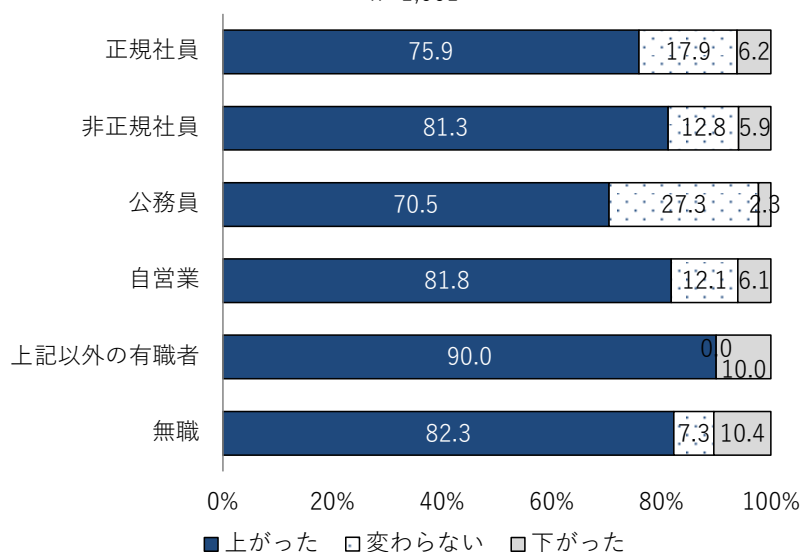
【図表34】 1年前と比べた物価の変化

<n=1,001>



【図表35】 1年前と比べた物価の変化（雇用形態別）

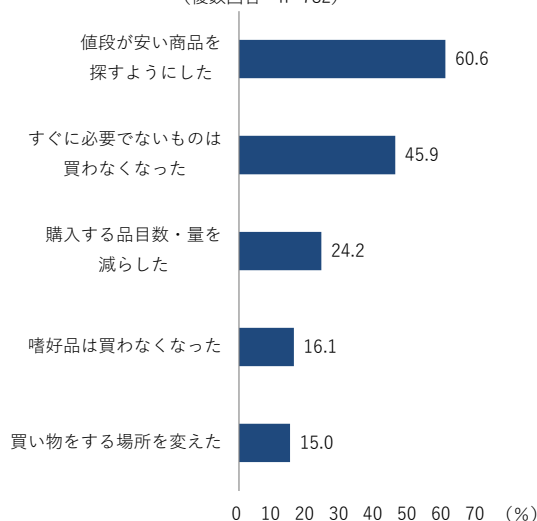
<n=1,001>



(2) 物価上昇への対応

- 物価上昇への対応は、「値段が安い商品を探すようにした」が60.6%と最も多く、次いで「すぐに必要ではないものは買わなくなった」が45.9%、「購入する品目数・量を減らした」が24.2%となった。(図表36)

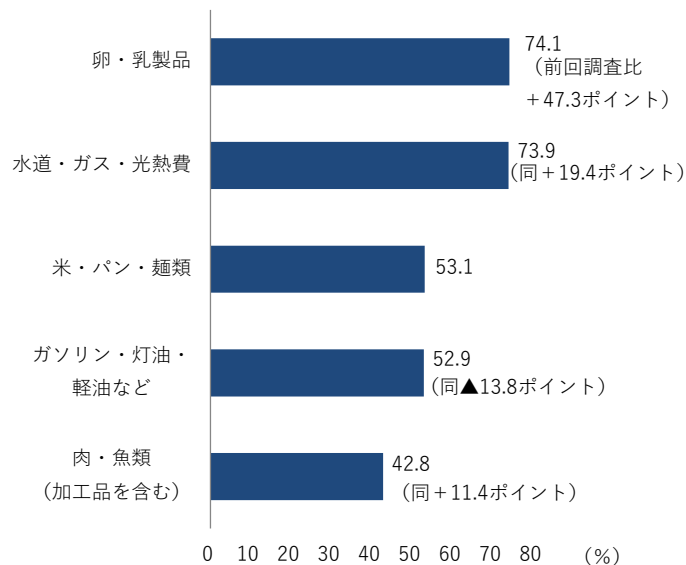
【図表36】 物価上昇への対応
(複数回答 n=782)



(3)特に価格が上がったと感じるもの

- ・ 特に価格が上がったと感じるものは、「卵・乳製品」が74.1%と最も多く、次いで「水道・ガス・光熱費」が73.9%、「米・パン・麺類」が53.1%となった。(図表37)
- ・ 特に「卵・乳製品」は前回調査比+47.3ポイントと大幅な上昇がみられた。鳥インフルエンザ流行による生産量の減少、飼料価格の高騰などによる価格上昇を実感する人が増えている。

【図表37】 特に価格が上がったと感じるもの（上位5項目）
(複数回答 n=1,001)

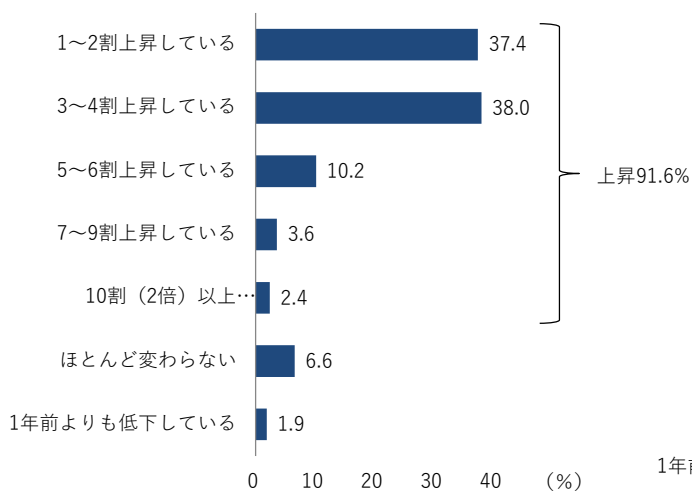


注 「米・パン・麺類」は、前回調査(2022年8月)と選択肢が異なるため比較なし。

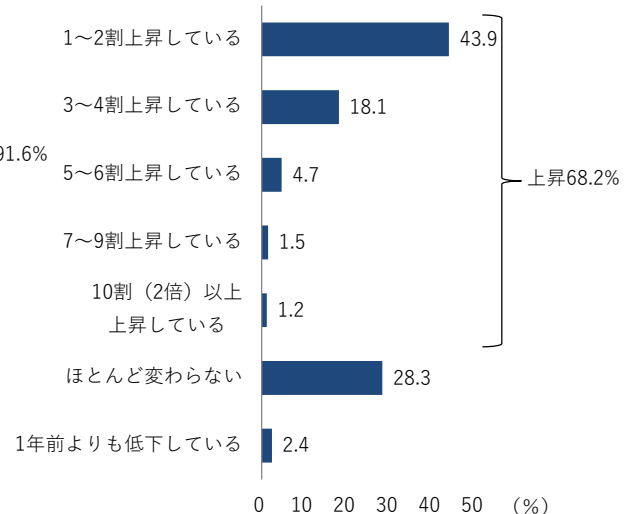
(4)1年前と比べた電気・ガス料金、水道料金の変化

- ・ 1年前と比べた電気・ガス料金については「3〜4割上昇している」が38.0%で最も多く、次いで、「1〜2割上昇している」は37.4%となった。(図表38)
- ・ 1年前と比べた水道料金については「1〜2割上昇している」が43.9%で最も多く、次いで、「ほとんど変わらない」が28.3%、「3〜4割上昇している」が18.1%となった。(図表39)

【図表38】 1年前と比べた電気・ガス料金の総額



【図表39】 1年前と比べた水道料の総額
<n=1,001>



(5)1年後の物価の見通し

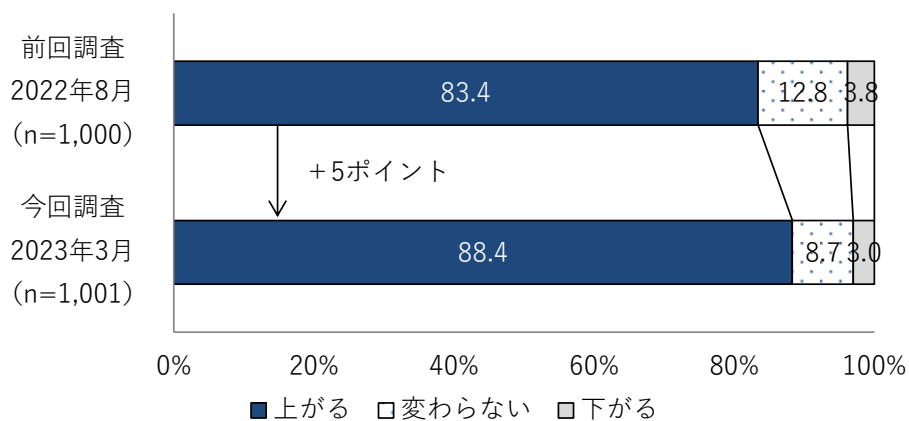
- 1年後の物価の見通しが「上がる」※9と感じている人は88.4%、「下がる」※10は3.0%、「変わらない」は8.7%となった。(図表40)

※9 「上がる」＝「かなり上がる」＋「少し上がる」

※10 「下がる」＝「かなり下がる」＋「少し下がる」

- 物価の上昇を見通す人の割合は、前回調査比＋5ポイント上昇した。

【図表40】 1年後の物価の見通し



以上